

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	学校法人 東海学園
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市東区筒井一丁目2番35号
工場等の名称	東海学園大学・東海学園高等学校
工場等の所在地	名古屋市天白区中平二丁目901番地
業種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	学校教育
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月26日 ～ 令和6年10月24日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 学校法人東海学園 学園事務局
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-801-1629		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

地球温暖化は、国際社会においても大きな問題となっていて、地球規模で考えなくてはならない課題であり、人類の生存基盤にも係る重要な環境問題の一つです。そのような中で、まず自分たちには何ができるかを考え、個人で対応できる部分と、事業活動を通じて行うことの両面から地球温暖化対策を引き続き推進していきます。

1. エネルギー使用の合理化を進め、省エネルギー活動を推進します。
2. 地球温暖化対策の重要性を認識するよう、教職員への環境教育を進めます。
3. 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

- ・各校、各部署で省エネ行動を推進するよう通達

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1, 425	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1, 425	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量	0. 02883	/ m ²	0. 0284	/ m ²	0. 02906	/ m ²	0. 02886	/ m ²	/ m ²
削減率（対 基準年度）			1. 5	%	▲ 0. 8	%	▲ 0. 1	%	%
原単位あたりの みなし排出量						/ m ²		/ m ²	/ m ²
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

基準年度に対し僅かながら増加となったが、前年度対比では低減している。基準年度である令和3年度はコロナ禍であったことを勘案すると、省エネを意識した運用ができていると考えられる。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・クールビズを5月20日頃～10月末日頃まで実施。 ・空調の温度設定を政府推奨の温度設定とする。	クールビズ実施期間を掲示し、教職員並びに来学者に浸透する。	・使われていない教室等を巡回中に見つけた際は空調をオフにしている ・クールビズを実施
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・フィルターの定期清掃を行い、空調の効率化に努める。 ・ブラインドの活用により、日射負荷の減少及び断熱性の強化を図る。 ・グリーンカーテンの活用をはかる。		・フィルターの定期清掃を実施
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・トイレの照明を人感センサー照明に変更する。 ・使用していない学生ホール・講義室や、昼休み・時間外の消灯を徹底する。		・使われていない教室等を巡回中に見つけた際は消灯を行っている ・一部LED照明化
一般管理・エネルギー使用量の把握	・パソコンに依る電力デマンドの監視を実施する。 ・エネルギー使用量の月毎の経年変化（3年間）を把握する。（電気・ガス）		・デマンド監視によりいつ頃にピークを迎えるか、どのようにピークシフトができるかを把握しピークシフトができるよう調整
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	離席時にはスリープ機能を活用する。		・スリープ機能を活用している

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

巡回による未使用室のエアコン、照明の停止を実行している。学生・生徒や教職員に声かけを行い設定温度を夏は上げ、冬は下げて貰うようお願いしている。また、節電協力を学内に周知している。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

毎月 3 日間（7 のつく 7 日、17 日、27 日）に「環境美化・禁煙運動の日」を設定し、実施している。
--